

慶應義塾大学楽友三田会関連団体『楽友三田会歩こう会』
第61回楽友三田会 Walking の会 開催のお知らせ

「北陸新幹線の旅—金沢を歩く」

＜開催のお知らせ＞

2017年10月7日(土) 8日(日) 9日(月)

集合場所： 東横イン 金沢駅前支店

時刻： 10月7日(土曜日) 午後 10時00分

石川県金沢市。歴史的にも、文学者たちが多く住んだ町としても、また美味しい食べ物やお酒がある街としても、何か胸騒ぎを起こさせる町。

犀川。石川県金沢市の南端に位置する奈良岳に源を発し北流する。金沢の市街地を流れ、日本海に注ぐ。

江戸時代初期、犀川上流の水を金沢城に引いた辰巳用水が建設され、現在も流れている。また、金沢市内を流れる数々の用水がこの川から取水している。

河口の金石港(かないわこう)は、江戸時代以前は宮腰(みやのこし)と呼ばれ、金沢の外港として重要視された。古くは中流域で、大きく二流に分かれて流れていたが、江戸時代初期の治水工事で概ね現在の流れになり、香林坊付近を流れていた川道は鞍月用水や金沢城の外堀に転用された。今回のウォーキングはこの川を中心に巡る。

乗車予定の電車

○ 当日 MMC 練習参加者：

北陸新幹線 かがやき515号 東京駅 18:24 発→金沢 20:55 着

○ MMC に参加されていない方：

ご自由に金沢に向かってください。

○ 翌8日に参加される方：

かがやき501号 東京発 6:16 発→金沢 8:46 着をご利用ください。

荷物を駅のロッカーに納めて、金沢駅発 9:13 のバスで目的地に向かいます。お昼はお弁当の予定です。東京駅または金沢駅でお弁当の用意をしてください。なお、午前中は辰巳用水を歩く予定です。お昼にひがし茶屋に到着予定ですので、そこからの参加も可能でしょう。

帰路の電車、およびどの席を予約したらよいかは後日連絡します。

10月8日(日曜日)

午前コース

8日午前8時40分ホテル出発→金沢駅前バスターミナル9:13発→大道割(辰巳用水)→錦町→鶴間坂→旧街道(オコ谷往来?)→椿原天満宮→東山ひがし茶屋街(昼食)→主計町茶屋街



① 辰巳用水

石川県金沢市を流れる約11kmの用水路。3代加賀藩主・前田利常の命により、1632年(寛永9年)に板屋兵四郎が完成させたといわれている。金沢城の防衛・防火のための用水を導水する目的で掘削された。犀川上流の金沢市上辰巳より取水し、約4kmの導水トンネルを経て小立野台地に出た後、兼六園の園内の曲水(庭園を曲がりくねって流れる)となる。金沢城は堀に囲まれていたが、板屋兵四郎は水の高低差を利用して金沢城内に水を吹き出させた。これは取水地が金沢城より高い位置にあることを利用した逆サイフォン(当時は「伏越の理(ふせこしのことわり)」と呼ばれた)であった。

② 東山ひがし茶屋街

浅野川の東側に開かれたひがし茶屋街は、にし・主計町と並ぶ三茶屋街のひとつ。

石畳の通りに紅殻格子の町家が軒を連ねる。加賀藩公認の花街として始まり、往時は文人や大店の旦那衆の社交場として賑わった。



ここで昼食の予定です。お弁当を買い、浅野川の川べり、または近くの公園で食べます。



主計(かずえまち)町茶屋街にも寄りましょう

午後コース

ひがし茶屋→金沢城→兼六園→歴史の小道→長町(ながまち)武家屋敷跡



③ 金沢城

1583年の前田利家の入城後、加賀藩前田家14代の居城として威容を誇っていた。1881年に主要な櫓が焼失し、戦後は金沢大学のキャンパスとなっていたが、2001年に江戸後期の地割りや絵図とともに、新しい史跡公園として整備された。

④ 兼六園

兼六園 徽軫(琴柱ことじ)灯籠



1676(延宝4年)、加賀藩5代藩主前田綱紀(つなのり)が金沢城に面する傾斜地に別荘を建て、その周辺を庭園にした。これが現在の兼六園の礎であり、当時は「蓮池亭(れんちてい)」と呼ばれていた。しかし 1759 年(宝暦9年)の大火で、蓮池庭のほとんどが消失してしまった。1774 年(安永3年)11代藩主治脩(はるなが)は再建に着手し、まず翠滝(みどりたき)や夕顔亭を、1776 年(安永5年)には内橋亭を造り、整備を完了させた。

歴史博物館 成巽閣

13 代藩主齊泰が母親の真竜院のために建てた隠居所。鮮やかな彩色の花鳥欄間や柱のない廊下など贅沢。時間があったら見学しましょう。



⑤ 歴史の小道



⑥ 長町武家屋敷跡



加賀藩時代の上流・中流階級藩士の侍屋敷が軒を連ねている。土塀と石畳の路地が続いており、藩政時代の情緒ある雰囲気を楽しむことができる。



武家屋敷近くを流れる大野庄用水

⑦ 大野庄用水・鞍安用水を歩きホテルへ→ ホテルで休憩のあと打ち上げ会場(居酒屋「長八」)へ

10月9日(月曜日)

8:00 ホテル出発→金沢駅着→ロッカーに荷物を預ける→金沢駅出発犀川へ→犀川(大豆田大橋まめだおおはし)着 犀川左岸を歩く →示野中橋(しめのなかはし)→銭屋五兵衛記念館着(20分見学)→昼食(「福寿し」予定)→からくり記念館(日本海を見る)→ヤマト醤油味噌(30分見学)

- ここ(大野)で終了コース(バスに乗り、金沢市内・香林坊へ)
- 石川県庁へ向かうコース (県庁 →金沢駅 バス) →帰路
- 北鉄浅野川線 内灘駅に向かうコース (内灘駅 → 金沢駅) →帰路

① 犀川へ



石川県金沢市の南端に位置する奈良岳に源を発し北流する。金沢の市街地を流れ、同市普正寺町と金石西の境界から日本海に注ぐ。江戸時代初期、犀川上流の水を金沢城に引いた辰巳用水が建設され、現在も流れている。そのほか、金沢市内を流れる数々の用水が取水しており、市民の水資源として重要な役割を果たしている。上流には犀川ダム、内川ダムがあり、さらに2012年(平成24年)には、洪水対策として工事が行われていた辰巳ダムが竣工した^{[1][2]}。また、浅野川の洪水防止のため、浅野川の水を犀川に分水している。

② 銭屋五兵衛記念館

北前船の航海は西廻り航路が主で、基本的には大坂を基地に蝦夷へ向けて1年1航海である。「総だち」といって、北国の船乗りたちは2月頃に春祭りを済ませて大坂に向かって出発、5日～6日で大坂に着いて、出帆の準備にかかり、4月初めに出帆し、瀬戸内海、日本海の寄港地で商いをしながら蝦夷地に到着。6月頃に買付けを終えて7月～8月頃に出帆、大坂へは冬の初めまでに戻る。北前船の積荷は蝦夷に行く下りが米、酒、塩、砂糖、紙、木綿などで、大坂に行く上りは昆布、鰯などの海産物や米粕等であった。北前船の積荷の利益は「千



石船一航海の利益は千両」と云って、下り荷三百両、上り荷七百両といわれている。

このあたりで昼食 ③ 昼食のお店 「福寿し」

④ からくり記念館（中に入らず通過するかも）



江戸時代の発明家、大野弁吉の業績を記念して、1996年（平成8年）に建てられた記念館。建物の位置は金沢港の目の前に面しており、日本海を望むことができる。展示品がある本館と主にからくり体験学習で使われる子供からくり体験棟の2館で構成されており、本館はホッパー型の建物構造になっている。主にからくりの展示をしている

る記念館で、からくり人形や望遠鏡、ピストル、のぞきからくりなどがある。そのほかに、大野弁吉に関する人物伝、からくり技術が常設展示されている



日本海を見よう！！

⑤ ヤマト醤油味噌



醤油ソフト 超旨い？

石川県大野町は、千葉県野田・同銚子・兵庫県龍野・香川県小豆島と並んで醤油の五大名産地の一つとして知られる。同社は、「旨口」とされる金沢市大野の醸造元の一つである。本社工場内には、「糀パーク」と称した直売店をもつ。また、同社が位置する大野町は、白山連峰を源にする清冽な伏流水が湧き出る土地で、また日本海に面する港町でもあり、かつては数多くの北前船の船団を抱えた大野川（浅野川）の河口に位置する加賀藩の外港でもあった。ヤマト醤油は、初代・山本藤松（とうまつ）が現在地において、明治44年（1911年）に創業致した。社名のヤマトは、初代の屋号であった『山藤（やまとう）』に由来している。初代は、船乗りで、船を使って、北海道との商いも行っていた。金沢からの往きには、醤油・味噌・雑貨を積み、北海道からの帰り荷としては、大豆・雑穀・海産物・材木を運び商いをしたという。創業時より、国産の大豆・特に北海道産の大豆を味噌の原料に使っていることが特筆される。2代目が醤油醸造を創め、3代目が味噌醸造を創め、現在の4代目が米糀を使った発酵食品（玄米甘酒）や、糀ソース等調味料の製造をはじめた。

ヤマト醤油味噌



このあと 3コースになります。足の状態を考えてコースを選びましょう。

- ここで終了コース（バスに乗り、金沢市内・香林坊へ） → 帰路
- 石川県庁へ向かうコース（県庁 → 金沢駅 バス） → 帰路
- 北鉄浅野川線 内灘駅に向かうコース（内灘駅 → 金沢駅） → 帰路



北鉄浅野川線 電車



内灘駅



金沢県庁

○ 打ち上げ会場 長八金沢駅前(金沢市此花町 5-5 Tel 076-256-1843

費用 5000円+ α

費用

- 各自往復の電車賃
- 打ち上げ費用
- 8日お弁当代、9日昼食代
- バス料金
- 資料館等 入館料

準備： 日ごろ履きなれた通常のウォーキングシューズを履いてください
水分補給用飲料水、雨の対策具。

○本会は無理をしないことを第一の旨としていますが、雷雨、台風、豪雨などの厳しい気象状況が発生しない限り、ウォーキングを行います。

金沢市内ウォーク <1日目>

| | 距離 | 時間 | | | |
|------------|------|-------|------------|-----|-------------------|
| 東横イン | | | | | |
| ↓ | 0.6 | | | | |
| 金沢駅 | | 9:13 | 金沢学園行きバス乗車 | | |
| (バス) | | | | | |
| 大道割 ※ | | 9:40 | | | ※辰巳用水路を歩く |
| ↓ | 2.4 | | | | |
| 錦町(老福屋) | | 10:25 | 休憩10分 | | |
| ↓ | 2.3 | | | | |
| 金沢大学 | | 11:20 | 休憩10分 | | |
| ↓ | 2.7 | | | | |
| 東茶屋街 | | 12:20 | 昼食(50分) | | |
| | | 13:10 | 発 | | |
| ↓ | 1.4 | | | | |
| 金沢城(大手門) | | 13:40 | | | |
| ↓ | 2.0 | | 見学20分 | | |
| 石川門 | | 14:40 | | | |
| ↓ | 0.7 | | | | |
| 兼六園(成巽閣) | | 14:55 | | | |
| ↓ | 1.2 | | 見学20分 | | |
| 香林坊 | | 15:35 | | ※※ | (各館:入館16時30分まで) |
| ↓ | | | | | 武家屋敷跡野村家 入館料 500円 |
| (武家屋敷経由)※※ | 2.4 | | 見学45分 | 4箇所 | 旧加賀藩士高田家跡 |
| ↓ | | | | | 前田土佐守資料館 入館料 300円 |
| 東横イン(駅前) | | 17:10 | | | 金沢市足輕資料館 |
| | | | | | |
| 計 | 15.7 | | | | |

東茶屋街 → 主計(かずえまち)茶屋街 → 金沢城 のルートを取る予定です。
兼六園を出た後、いくつかのルートを考えています。

| 金沢市内ウォーク <2日目> | | | |
|----------------|-------------|-------|-----------------------------|
| | 距離 | 時刻 | |
| 東横イン | | 8:00 | |
| ↓ | 0.6 | | |
| 金沢駅 | | 8:20 | 着発頃計 |
| ↓ | 2.6 | | |
| 犀川 | | 9:05 | |
| ↓(左岸) | 1.7 | | |
| 赤野中橋 | | 10:05 | (休憩10分) |
| ↓(左岸) | 2.1 | | (寄席=41) |
| 西部緑地公園 | | 10:40 | (休憩10分) |
| ↓ | 3.0 | | |
| 鐵道五兵衛記念館 | | 11:30 | 20分見学 |
| ↓ 出発 | | 11:50 | |
| ↓ | 1.6 | | |
| 品食 (福寿し) | | 12:20 | 品食 |
| ↓ | | | 80分 |
| 出発 | | 13:10 | |
| ↓ | 3.2 | | |
| からくり記念館 | | 14:00 | |
| ↓ | 0.7 | | |
| ヤマト醬油味噌 | | 14:10 | (見学30分) |
| ↓ 出発 | | 14:40 | |
| ↓ | 0.2 | | |
| 大野バス停 | ココで終了0.7km | 14:45 | (ココで終了)バス時刻15:15, 15:55 |
| ↓ | 3.8 | | |
| 石川馬房 | | 15:45 | (ココで終了)バス時刻15:52, 15:16, 31 |
| ↓ | | | |
| 金沢駅 | | 16:10 | |
| 計 | 19.5 | | |
| 内灘コース | | | |
| 大野バス停 | ココで終了0.7km | 14:45 | |
| ↓ | 6.0 | | |
| 内灘 | ココで終了23.0km | 16:00 | (ココで終了)北鉄浜野川線北金沢駅到16:12, 35 |
| ↓ | | | |
| 金沢駅 | | | |
| | | | |
| | | | |